

CSR 報告書 2018

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

ご質問ご意見は下記へお寄せください。

 住友精化株式会社

総務人事室 (総務)

〒541-0041 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 (住友ビル)

TEL:06-6220-8508 FAX:06-6220-8541

<https://www.sumitomoseika.co.jp/>



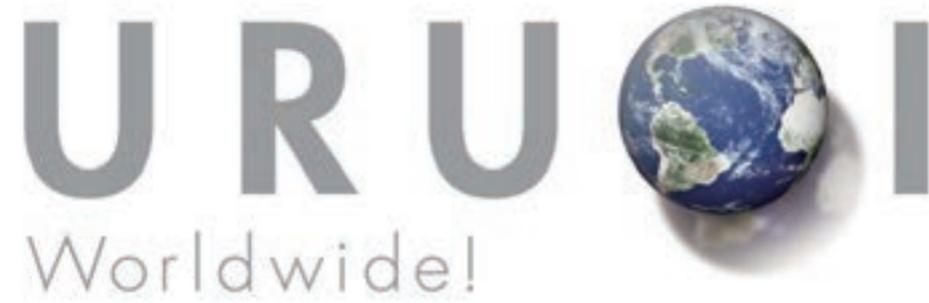
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



このCSR報告書は、環境への配慮のため、植物油のインクを使用しています。また、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷を行っています。

2025年のありたい姿

我々は世界の変化を先取りし、独自性のある自由な発想で驚きを提供し、自らも成長し続けることにより、地球と人々の暮らしに潤い"URUOI"を与えます。



「URUOI」は日本語の「潤い」という言葉に留まらない当社独自の意味合いを持たせることで、ステークホルダーに対して当社が提供する製品とサービスの価値を示しております。
当社は、人々の生活の様々な場面に利用される幅広い製品・サービスを通じて、当社グループの知見を活かしたサステナブルソリューションを社会と人々に提供することで、健康で豊かなくらしに貢献します。

"SEIKA WAY"

2025年のありたい姿を実現するため、全世界の住友精化グループ従業員が共有すべき価値観が "SEIKA WAY" です。これまでの歴史で積み重ねてきた想いととも、将来のありたい姿を、"なりたい存在"、"持つべき強み"、"大切にすべきもの"という3つの価値基準において示すため、10項目を明文化しました。



住友精化について	01 2025年のありたい姿 "SEIKA WAY"
事業活動	02 目次／編集方針
	03 社長メッセージ
	05 暮らしの中の住友精化
社会との関わり	07 住友精化グループが目指すCSR
	08 中長期経営計画(2016年～2025年度)
	09 持続可能な開発目標 (SDGs)
	10 事業紹介
レスポンシブル・ケア	13 地域・社会とともに
	14 お客様・お取引先様とともに
	15 社員とともに
	17 株主・投資家とともに
安全への取り組み	18 方針・推進体制
	19 活動と実績
環境への取り組み	21 労働安全衛生／保安防災
	22 物流安全／化学品安全
	23 環境保全
品質への取り組み	24 品質保証
ガバナンスとリスク・コンプライアンス	25 ガバナンスとリスク・コンプライアンス
	27 会社概要と2017年度の業績
	29 グループネットワーク
	31 巻末データ
	33 住友の事業精神 CSR報告書Webサイトのご案内
資料	34 第三者検証意見書

CSR報告書発行にあたって

当社グループは、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至るすべての過程において環境・安全・健康を確保するレスポンシブル・ケア(RC)活動に長年取り組んでいます。このRC活動を軸として、お客様、株主、お取引先、地域の皆様ならびに社員などのステークホルダーの皆様方と当社グループの関わりについて、「CSR報告書」の形で紹介させていただきます。少しでも多くの方に当社グループのCSRの考え方や取り組みを知っていただきたいと考えております。また、今後、更に内容を充実させていきたいと存じます。

なお、本報告書作成に当たり、環境省発行の「環境報告ガイドライン2012」および「環境会計ガイドライン2005」を参考にいたしました。また、RC関連の記載事項については、一般社団法人 日本化学工業協会による第三者検証を受審しています。

報告書の対象範囲

- 対象組織： 1.RCパフォーマンスデータおよび就労関連データは国内拠点のみを対象としています。
2.会社概要および2017年度の業績には連結子会社を含みます。
- 対象期間： 2017年4月1日～2018年3月31日
- 対象分野： CSR活動およびRCパフォーマンスデータ
- 発行： 2018年9月(次回発行予定2019年9月)

※当社(住友精化)グループとは、当社および連結子会社からなる企業集団により構成されます。

持続可能な社会の形成に貢献し、 皆様から信頼される企業を目指します

Message from the PRESIDENT

代表取締役社長

小川 育三



当社グループはCSR活動を、持続的な成長を支える経営基盤強化の取り組みの一環と位置づけ、2025年のありたい姿『我々は世界の変化を先取りし、独自性のある自由な発想で驚きを提供し、自らも成長し続けることにより、

地球と人々の暮らしに潤い (URUOI) を与えます。』のもと、レスポンシブル・ケア精神を尊び、コンプライアンス遵守に努めています。

また、当社グループは、単なる豊かさよりも、ひとの暮らしに寄り添い、心地よさを伴った快適・利便性、および一通りの満足を満たしたうえで+αが感じられるような製品とサービスや、乾いた地球をうるおすような地球環境改善への貢献、および世界の人々が安心して暮らせるための課題解決に貢献する製品とサービスを通じて、持続的な成長の実現に挑戦してまいります。同時に、コンプライアンス、内部統制

システムの充実、製品の品質維持・向上、環境保護と安全の確保、様々なステークホルダーとの対話を通じたコーポレート・ガバナンスの強化、といった取り組みを通じ、企業価値の向上を図ってまいります。

中長期経営計画 (SEIKA Grand Design 2025 “URUOI”)

当社グループは、将来を見据えた当社のありたい姿、すすむべき方向をまとめ、当社の目標を実現するための計画をひとつひとつ実行していくための羅針盤として、社員が立ち戻れる原典として2016年5月に「中長期経営計画 (SEIKA Grand Design 2025 “URUOI”)」を策定し、始動しました。

新事業・新製品の起業、既存製品の国内外での規模拡大、およびM&Aなどを含め、約800億円の投資を行い、本経営計画の最終年度 (2025年度) の目標として、売上高1,700億円、営業利益200億円 (営業利益率12%)、ROE12%超の達成を目指してまいります。

住友精化がこれまで培ってきた技術を起点に独創的な機能、価値を創出することによって、市場に潜在するビジネスチャンスを掘り起こしてまいります。そのため、新規事業機会探索を推進するイノベーション推進グループを新設しました。

各研究所をつなぐ本グループ設立により、情報、テーマ、人財が双方向に行き来し、相互の研究開発を加速する従来にない研究開発体制を構築してまいります。本計画期間中、研究開発を促進するために、研究費として、連結売上高の4%程度を投入してまいります。

同時に、経営基盤の強化を図ることで、本経営計画の最終年度 (2025年度) の目標実現に向けて、取り組んでまいります。

安全の確保・安定操業の実現

安全確保、安定操業は、企業活動の原点であります。日頃から「想定外のことを想定する」ことを忘れず、「安全をすべてに優先させる」という基本原則のもと、安全に対する地道な活動を行っており



ます。2014年度から、全社をあげての事故対策訓練を行い、従業員の危機管理意識の更なる向上に取り組んでいます。今後とも、これまでの事故事例や訓練での成果を踏まえ、管理レベルをより向上させるべく、引き続き、教育や訓練に注力してまいります。

地球レベルでの環境保護実現のために

当社グループは、地球レベルでの環境保護の実現のため、省エネルギーの推進、廃棄物削減、PRTR対象化学物質・揮発性有機化学物質 (VOC) の削減、重大環境トラブル“ゼロ”などの目標を掲げ、対策を実施しております。

また、その他の項目に関しても、引き続き対策を実施し、着実に取り組むことで、環境保護に努めてまいります。

本報告書では、当社グループのCSR活動の一端を紹介しています。本報告書をご一読いただき、当社グループのCSR活動の考え方と取り組みへのご理解を賜るとともに、今後の活動の向上のため、忌憚のないご意見、ご指摘をいただければ幸いです。今後とも当社グループへの更なるご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2018年9月

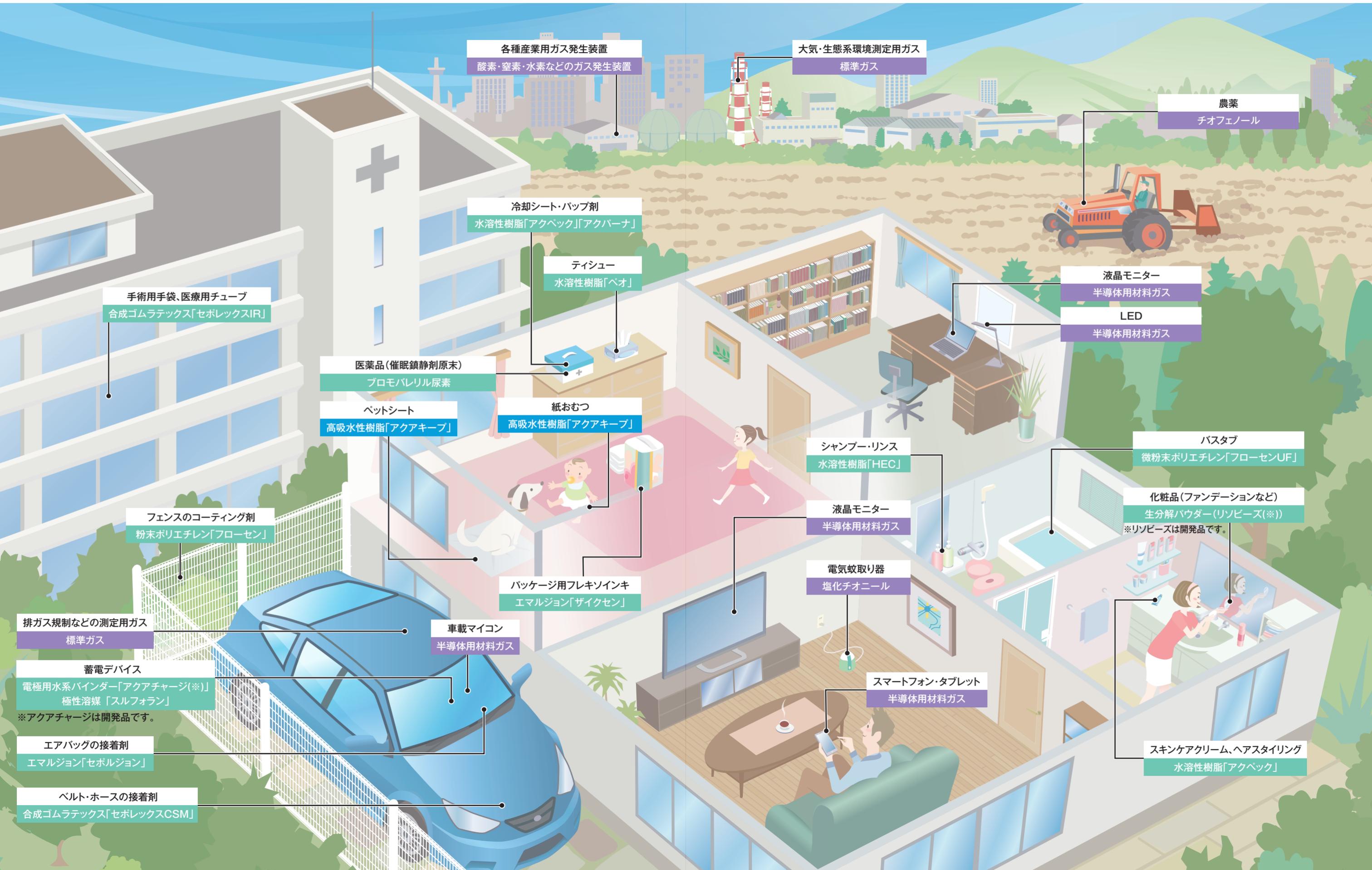


暮らしの中の住友精化

■ 吸水性樹脂事業

■ 化学品事業

■ ガス・エンジニアリング事業



各種産業用ガス発生装置
酸素・窒素・水素などのガス発生装置

大気・生態系環境測定用ガス
標準ガス

農業
チオフェノール

冷却シート・パップ剤
水溶性樹脂「アクベック」「アクバーナ」

ティシュー
水溶性樹脂「ペオ」

液晶モニター
半導体用材料ガス

LED
半導体用材料ガス

手術用手袋、医療用チューブ
合成ゴムラテックス「セボレックスIR」

医薬品(催眠鎮静剤原末)
プロモバレリル尿素

ペットシート
高吸水性樹脂「アクアキープ」

紙おむつ
高吸水性樹脂「アクアキープ」

バスタブ
微粉末ポリエチレン「フローセンUF」

化粧品(ファンデーションなど)
生分解パウダー(リソピース※)
※リソピースは開発品です。

フェンスのコーティング剤
粉末ポリエチレン「フローセン」

シャンプー・リンス
水溶性樹脂「HEC」

液晶モニター
半導体用材料ガス

排ガス規制などの測定用ガス
標準ガス

車載マイコン
半導体用材料ガス

パッケージ用フレキシインキ
エマルジョン「サイクセン」

電気蚊取り器
塩化チオニール

蓄電デバイス
電極水系バインダー「アクアチャージ※」
極性溶媒「スルフォラン」
※アクアチャージは開発品です。

スマートフォン・タブレット
半導体用材料ガス

エアバッグの接着剤
エマルジョン「セボルジョン」

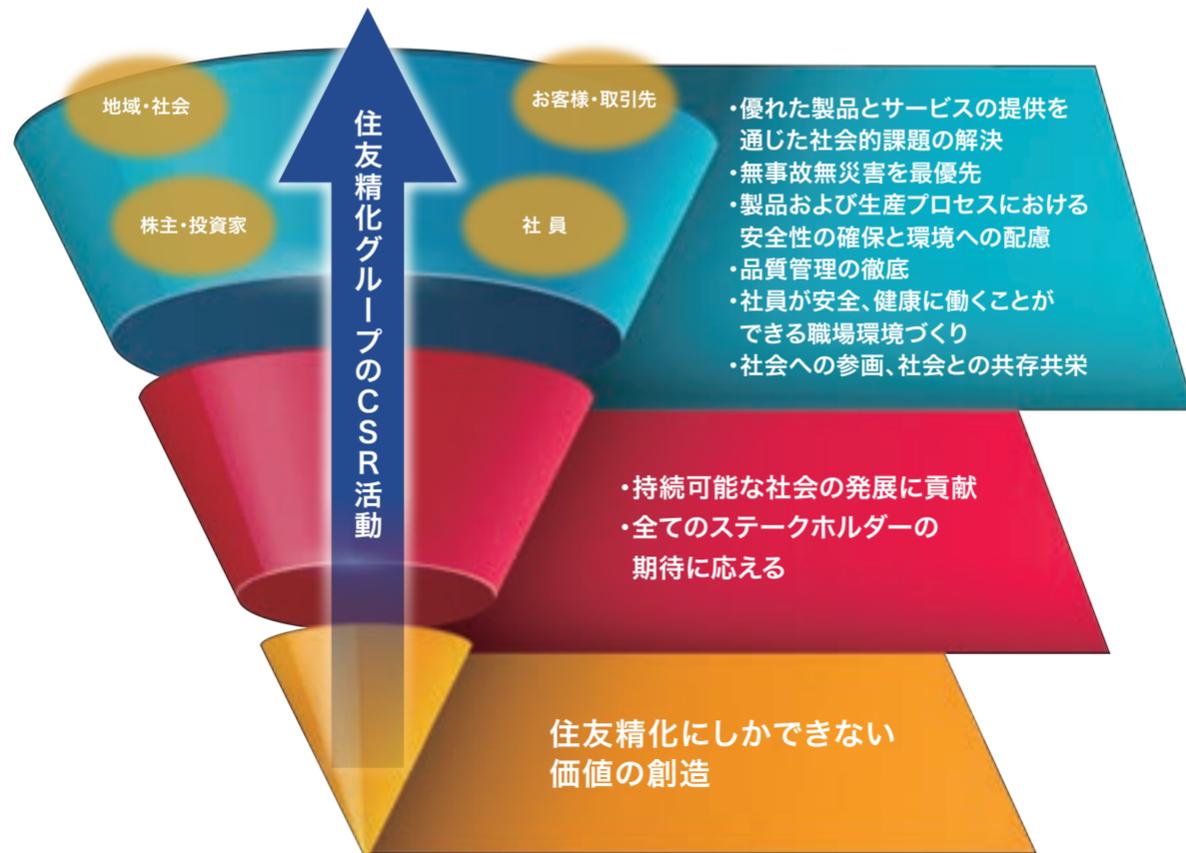
スキンケアクリーム、ヘアスタイリング
水溶性樹脂「アクベック」

ベルト・ホースの接着剤
合成ゴムラテックス「セボレックスCSM」

住友精化グループが目指すCSR

住友精化グループは、私達にしかできない価値の創造を通じて持続可能な社会の発展に貢献します。
また、これにより全てのステークホルダーの期待に応えていくことを目指します。
そのために、住友精化グループは以下に注力してCSR活動を推進してまいります。

1. 快適な暮らしを支える製品の提供、ニーズを機能で解決する製品の開発、産業基盤を支える優れた製品とサービスの提供を通じて、社会的課題を解決し、持続可能な社会の発展に貢献します。
2. 化学メーカーとして、無事故無災害を最優先に考え、工場の安全・安定操業と製品の安全輸送に取り組みます。
3. 製品と生産プロセスが生物や環境に与える影響を適切に評価し、安全性の確保と環境への配慮に取り組みます。
4. 品質管理を徹底し、お客様が満足・安心して使用できる製品とサービスを提供します。
5. 従業員が安全かつ健康的に仕事に取り組むことができる職場環境を提供し、仕事に誇りとやりがいを持てる組織風土をつくります。
6. 企業市民として、社会に参画し、社会との共存共栄を目指します。

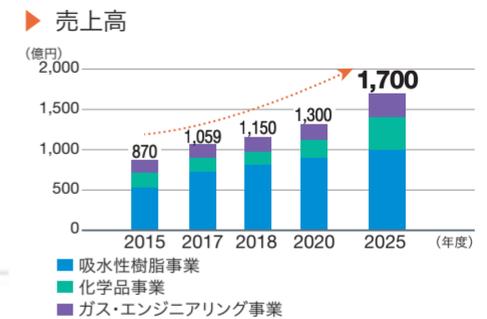


URUOI
Worldwide!

中長期経営計画 (2016年~2025年度)

SEIKA Grand Design 2025 “URUOI”

住友精化グループは、2016年~2025年度までの中長期経営計画として「SEIKA Grand Design 2025 “URUOI”」を掲げ、計画の実現に向けて取り組んでいます。



住友精化グループが目指す姿

当社グループは、中長期経営計画(SEIKA Grand Design 2025 “URUOI”)の策定にあたり、2025年のありたい姿として「我々は世界の変化を先取りし、独自性のある自由な発想で驚きを提供し、自らも成長し続けることにより、地球と人々の暮らしに潤い“URUOI”を与えます。」を制定いたしました。当社グループにしかできない価値の提供を通じ、当社の製品・サービスが世界中の顧客から信頼を得、また、国内外の社員全員が誇りを持って働ける企業グループを目指します。

1. 事業方針

当社グループは本計画の3年目を迎えました。事業環境に変化はあるものの、新事業・新製品の起業、既存製品の国内外での規模拡大などにより、本経営計画の最終年度(2025年度)の目標として、売上高1,700億円、営業利益200億円(営業利益率12%)、ROE12%超の達成を目指す事業戦略を堅持いたします。

2. 研究開発方針

これまで培ってきた技術を起点に、独創的な機能、価値を創出することによって、市場に潜在するビジネスチャンスを掘り起こしてまいります。そのために、新規事業機会探索を推進するイノベーション推進グループと

事業部門の研究開発が、情報、テーマ、人財を双方向で行き来させることにより、相互の研究開発を加速する研究開発体制を構築いたします。また、研究開発促進のために、研究費として連結売上高の4%程度を投入してまいります。

3. 経営基盤強化への取り組み

当社グループは以下の事項に取り組み、持続的な成長を支える経営基盤の強化を図ってまいります。

(1) 「CSR活動の推進」

「安全を全てに優先させる」を原則に社会的責任を果たし、社会からの信頼を得、社会に安心を提供します。

(2) 「人財育成」

人財が最大の資源であると位置づけ、社員のEmployability向上と計画的キャリアアップを図ります。

(3) 「グループ経営の強化」

組織の責任・権限の明確化やコーポレートガバナンスの強化への注力により、グローバル競争におけるグループ経営の強化を図ります。

(4) 「更なる技術力の強化」

既存事業の発展・新規事業創出の原動力として、これまで培ってきた基盤技術の深耕と拡大、ならびに生産技術の高度化と革新を図ります。

持続可能な開発目標 (SDGs)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) とは

2015年9月、全国連加盟国(193国)は、より良き将来を実現するために

今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、

私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。

本アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言及び目標を掲げました。

これが、17の目標と169のターゲットからなる

「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」です。

住友精化グループにおいて関連する

SDGs目標(アイコン)については、

紙面右上に掲載しています。

世界のお客様に“URUOI”をお届けする機能化学品

化学品事業

快適な生活に欠かせないパーソナルケア製品から高性能な接着剤やゴムなどの工業用製品、電池・エネルギー材料に至るまで、幅広い分野に対応。世界のお客様に“URUOI”をお届けする住友精化の機能化学品。



事業紹介

化学品事業では、強みである機能面での「増粘」「接着」および技術面での「合成・精製」「加工」をキーフアクターとして研究開発に取り組み、メインドメインとしての医療・生活・環境・エネルギー分野において、国内外で新事業・新製品を創出することにより、「潤い“URUOI”」を具体化し、2025年度には売上高400億円、うち半分を新製品が占める事業構造の実現を目指してまいります。

製造職場インタビュー

別府工場 精密化学品課
歌野 絢太さん

製造品目に対する 自分達の責任の重さを実感

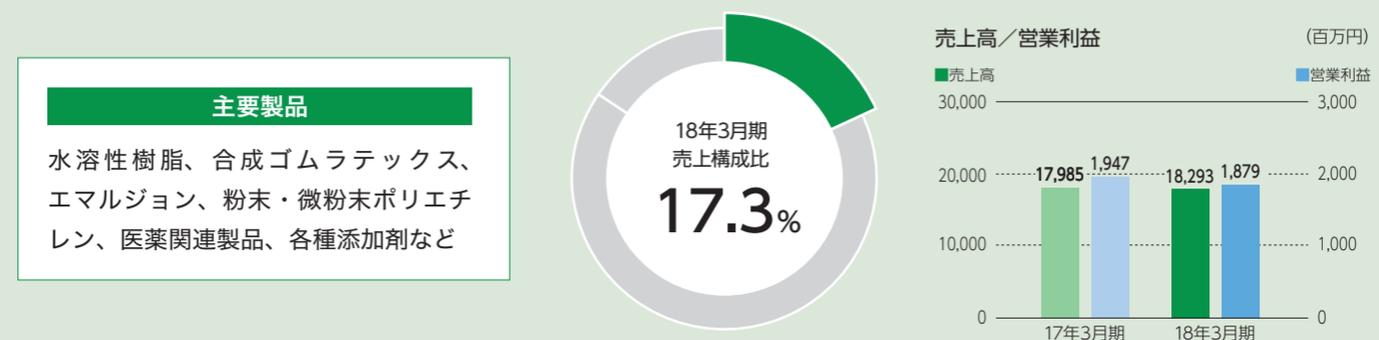
別府工場・精密化学品課に所属し、医薬品中間体などの製造業務に従事しています。プラントは基本的に24時間稼働であり、3交替で製造にあたっています。

設備の「災害、不良、故障」の3つの発生ゼロを全員参加で実現し、生産効率を上げるために設備毎にチームをつくっての自主的な活動ではチームリーダーとしてメンバーをまとめています。チームをまとめるには、メンバーと的確に意思の疎通を図ることがとても大切



な要件です。希望としては、将来的にはこの経験を活かして「技術伝承」「教育」といった仕事にも携わりたいと考えています。

精密化学品課の製品は、ご本人が自ら服用する薬にも含まれています。自分達はお客様の体内に入る製品を製造していることに責任の重さを実感し、同時に誇りを持って業務に取り組んでいます。



人々の暮らしに潤い“URUOI”を与える吸水性樹脂 (アクアキープ)



吸水性樹脂事業

吸水性樹脂「アクアキープ」は、ユーザーのニーズに合わせ吸水機能を自在にコントロール可能。人々の暮らしに潤い“URUOI”を与える住友精化の技術。



事業紹介



吸水性樹脂事業では、衛材用途を中心とした市場ニーズの多様化に 대응していくとともに、人々が健康でより快適な生活を送るために、これからも、「アクアキープHP」などの高性能な吸水性樹脂をはじめとして、オンリーワンの「製品とサービス」をグローバルに提供しつづけて、2025年度に売上高1,000億円を目標とし、利益率の更なる向上を目指してまいります。

研究職場インタビュー

吸水性樹脂研究所
西田 萌さん



自分の仕事が社会の役に立っていることへの誇り

吸水性樹脂研究所で吸水性樹脂に関するカスタマーサービスや高品質製品の開発に関する研究に従事しています。研究だけではなく吸水性樹脂の市場の調査・分析も重要な仕事の一つとなっています。海外のお客様を担当することもあるので、データベースを活用して海外の情報を収集・解析することもあります。必要とする情報を得るのに苦労することも多いのですが、常に世の中(世界)の動きに対してアンテナを張っておくことが大

事です。仕事をしていて一番やりがいを感じるのは、自分達の提案がお客様に受け入れられ、「ありがとう」と言ってもらえるとき、喜びとともにお客様のためにもっと頑張ろうという力が湧いてきます。自分の携わる製品(紙おむつ)が自分の身近な人達に使われているのを見たとき、自分の仕事が社会に役立っていることを実感するとともに誇りに思います。

「化学屋をベースとしたガス屋」はNO.1クリエイター



ガス・エンジニアリング事業

「化学屋をベースとしたガス屋」という独自性を新製品開発・新市場開拓に活用し、他社に先駆けて新製品・新用途をいち早く提供し続けるNO.1クリエイターになります。



事業紹介

ガス・エンジニアリング事業では、ガスをベースとした合成、混合、分離・精製、分析技術の深化により、エレクトロニクス、医療、環境・省エネルギーをメインとした新事業・新製品を創出してまいります。また、既存事業の選択と集中をはかり、ニッチでグローバルな市場への展開を通して、2025年度には事業規模300億円の足腰の強いガス・エンジニアリング事業になることを目標としています。

営業職場インタビュー

ガス事業部
川上 純一さん



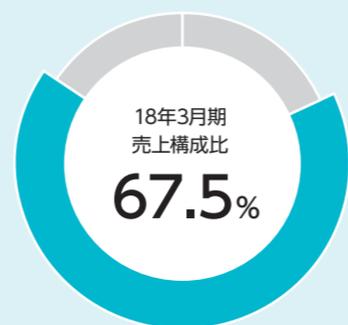
仕事を通じて環境問題に関わっていることに対するやりがい

ガス事業部で半導体用ガスの開発・マーケティング活動に従事しています。お客様の声を聞きながら、当社製品の新規用途を開発し、新製品について事業化の計画・立案をおこなっています。大学との共同研究を通じた新製品の開発に取り組んでおり、情報を収集する為に学会や展示会にも積極的に参加しています。開発の仕事は、世の中の新しいニーズを汲み取ることが重要であり、新しいテーマ発掘のためには常にチャレンジ精神

を持って取り組むことが必要だと感じています。主に取り組んでいる製品は、環境にやさしい太陽光発電や電気自動車に搭載されている電子部品を製造する過程で使用されています。入社する前から環境問題に興味があり、大気汚染、自然エネルギーの利用(太陽光発電など)、省エネ社会の実現などに関心を向けていました。現在は仕事として環境問題に関わることができ、やりがいを持って仕事に取り組んでいます。

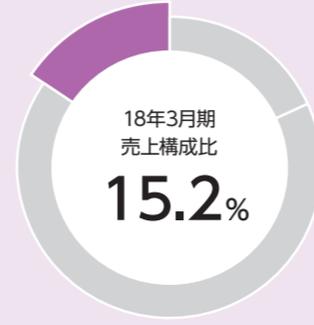
主要製品

高吸水性樹脂 (おむつ・ペットシートなど衛生材料、通信ケーブル用止水剤など工業材料、農園芸用保水剤 ほか)



主要製品

半導体用材料ガス、標準ガス、工業薬品、ケミカルガス、PSAガス発生装置など





地域・社会とともに

各事業所において「情報開示」、「地域の皆様とのコミュニケーション」活動に取り組み、地域との良好な関係の構築・維持に努めています。

イベントへの参画

2017年度は、2016年度に引き続き日本化学工業協会が主催しています“化学の日 子ども化学実験ショー(キッズプラザ大阪)”に出展し、「ひんやりシートをつくらう」というテーマで子ども達に化学実験を行って貰いました。

また、毎年恒例となっています兵庫県播磨町で、“おもしろ教室(食品サンプルの製作を通じて、ゴミの分別やリサイクルといった環境問題について考える講座)”の出展や、兵庫県姫路市主催の“ひめじ環境フェスティバル”への協賛を行っています。

これらの活動により、子ども達が化学に興味を持ったり、環境問題について考えて貰う機会となればと考えています。



ひめじ環境フェスティバル

地域の清掃・美化活動

定期的に事業所周辺道路や側溝などの構外清掃活動を積極的に行っています。



構外清掃(千葉工場)

地域の方との交流

「情報開示」と「地域の皆様とのコミュニケーション」の一環として、“地域の方の防災訓練見学”などを開催し、当社の取り組みを説明するとともにご意見やご提案を伺う場としています。



地域対話集会

就業体験などの受け入れ

姫路市主催の理工系分野に興味のある女子中学生が将来の自分をしっかりイメージして進路選択(チャレンジ)することを応援する「理工チャレンジ事業」の受け入れを行いました。(P.15参照)



インターンシップ(別府工場)

また、中学生や高校生が、自らの専攻、職業観、生き方などを考える機会として「インターンシップ」や兵庫県の「トライやるウィーク」といった就業体験の受け入れを行っています。

献血活動

赤十字血液センター移動献血車による社内献血活動を行っています。毎回、大勢の社員が協力していますので、今後も継続していきます。



献血(姫路工場)

お客様・お取引先様とともに

当社は、グループ全体でお客様に満足し、かつ安心して、使用いただける品質の製品とサービスの提供を通じて、お客様との長期的な信頼関係を構築すべく、日々業務にまい進しています。

お取引先との連携

当社は、企業の社会的責任を果たしていくためには、お取引先様の協力が不可欠と考えています。適正な評価と、公正かつ透明性のある購買方針のもと、お取引先様と連携しながらサプライチェーン全体で、社会的責任の実現を図っていきます。

購買基本理念

1. 住友精化は自由で透明性のある誠実な購買活動に努めます。
2. 住友精化はコンプライアンスを大前提とした購買活動を行います。
3. 住友精化は購買活動遂行にあたり個人的利害を反映させません。
4. 住友精化は購買活動において企業の社会的責任の遂行を果たします。
5. 住友精化は購入取引先の選定について以下の事項を重視します。
 - ◇社会的規範、関係法令を遵守していること
 - ◇反社会的勢力との繋がりが無いこと
 - ◇環境保全に取り組んでいること
 - ◇人権の尊重と人種差別の排除に取り組んでいること
 - ◇労働環境に関する配慮を重視していること

Topic

「化学の日 子ども化学実験ショー2017」に出展

日程: 2017年10月21日(土)~22日(日)
場所: キッズプラザ大阪

「化学の日 子ども化学実験ショー」は、化学の原理を応用してものづくりをしている化学企業と、ふだん化学を教えている大学・高校・中学の先生方や生徒の皆さんが楽しく化学を学ぶ実験教室を出展する、主に小学生を対象とした体験型イベントです。当社の本イベントへの参画は2年目になります。



一番手前で説明しているのが諸富さん

当社は、「ひんやりシートをつくらう」と題して、自社製品である「アクパーナ」を使用し、冷却ジェルシートを作る実験を行いました。白衣と保護具(面体、手袋)の装着による安全を十分配慮した上で、メスシリンダーやビーカーといった実験器具を使用してもらいました。子ども達は、楽しみながら化学に触れると共に、「実験した」という体感が得られたのではないかと思います。

私は、今回初めて本イベントに参加しましたが、子どもたちの真剣に学ぼうとする姿勢や、実験が成功した時の喜んだ顔を見ることが出来、普段とは違った形で社会に貢献でき、私自身うれしく思いました。本イベントに参加してくれた子ども達が、少しでも化学に興味を持ってくれれば幸いです。

機能化学品研究所
諸富 叶衣



社員とともに

企業が持続的に成長を続けるためには、社員の成長が必要です。当社では「人」を財産と考えています。自ら考え成長する“人財”の育成に取り組むとともに、社員が安心して働きやすい職場づくりに向けた施策を実施しています。

人財育成

当社の人財育成方針

当社が「求める社員像」は、当社のありたい姿の実現に向けてまい進し、“SEIKA WAY” (P.1参照) を意識、実践する人です。そのような社員を育成していくために、中長期経営計画 (SEIKA Grand Design 2025 “URUOI”) の策定にあわせ制定した人財育成方針のもと、人財の育成に関わる環境整備、諸施策を実施しています。各階層別の研修プロ

グラムをはじめ、技術・技能伝承研修、グローバル化支援教育など様々な教育プログラムを用意しています。

教育-技術教育の拡充

当社では、経験・知識の豊富なベテラン社員や社外の専門家を講師として、技術・技能伝承教育を実施し、若手の早期戦力化に役立てています。2017年度は、研究者や生産技術者を対象としたコースを新たにスタートさせ、工場や研究所、エン

ジニアリング部門などそれぞれの受講者に応じた技術・技能の伝承を加速させています。

グローバルタレント

事業の海外展開に対応するため、当社グループではグローバルに活躍する人財の早期育成を目的とした「グローバルタレント養成コース」を設けています。若手社員を対象としたこの教育プログラムは、1年半程度の国内での研修期間と、数カ月間の海外グループ拠点での研修期間に分かれています。受講者はグローバルに活躍するために必要とされる知識・技能をまず国内で習得したうえで、海外研修として、実際に数カ月間海外グループ拠点へ行き様々な課題に挑戦します。自ら学び、考え、そして実践をすることを通じて個々の能力を開発していくことを目指しています。2012年の開講以降現在27名が受講を終えており、2017年度は、第4期生として11名が選抜されました。

グローバル人財の育成は当社グループの成長には不可欠であり、今後も継続的な育成に取り組んでまいります。

ワーク・ライフ・バランス (WLB) の推進

ワーク・ライフ・バランス検討委員会の開催

当社では、実労働時間の短縮や各種休暇制度の充実など、社員がより働きがい、生きがいを持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランス検討委員会を設け、下記のテーマに沿って労使で課題の抽出や様々な施策について協議を行っています。

- 時間外削減や有給休暇取得率向上への取り組み
- 柔軟な働き方を実現するための取り組み
- 新たな制度の検討

2017年度は、柔軟な働き方を実現するための取り組みの一環として、社員を対象にアンケートを実施しました。そのなかで、育児や介護の制度に関して、制度自体は広く認知されていたものの、具体的な手続きや社会保障制度などに関してはよく理解していないという意見がありました。WLB検討委員会において協議した結果、よりわかりやすい、利用しやすい制度となるよう「育児・介護休業制度解説ハンドブック」を作成しました。また、過去に取得した社員からは復職時・取得中の不安や悩みがあったとの声もあったことから、本人や職場の理解を深めるための講習会などの実施も予定しています。

また、計画年休制度について、より取得し易くなるよう内容を見直すとともに、厚労省の推奨するプラスワン休暇と組み合わせることなどにより、有給休暇取得率向上に努めています。

制度の充実はもとより、それらの制度への理解を深めることで、より利用しやすい職場づくりにつなげてまいります。



育児・介護休業制度解説ハンドブック

独身寮の新築工事完了

2017年に千葉地区独身寮『勝故寮』が新築されました。これにより全ての工場地区の独身寮の整備が完了いたしました。今後も働きやすい環境づくりの一環として厚生施設の拡充を図ってまいります。

Topic

理工チャレンジの受け入れを実施

理工チャレンジとは、理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして進路選択 (チャレンジ) することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みです。

2017年8月に姫路市で初めて理工チャレンジが開催され、第1回目の訪問先企業として当社が選出され、姫路市内の女子中学生29名に参加いただきました。当日は、女性研究員から研究職の仕事、理工系の進路に進んだきっかけ、化学実験を通して化学と

日程: 2017年8月9日 (水)
場所: 姫路工場

暮らしとの関わりなどの紹介を行いました。化学実験では女子中学生の皆さんに化学の面白さを体感してもらうため、当社製品 (吸水性樹脂) を用いた紙オムツの吸水実験を体験していただきました。

理工チャレンジ終了後、参加者から『身近に使われている製品が、多くの人の研究成果があって生まれていることが分かり良い経験ができた』、『改めて化学の面白さを知ることができた』、『女性研究員の方のお話を聞き、私も理工系の道に進みたいと思った』などの感想をいただきました。



株主・投資家とともに

株主、投資家などのステークホルダーならびに広く社会に対して、会社情報を正確、かつ迅速に開示しています。

IRポリシー

当社は、投資家情報（IR情報）を迅速かつ適確に開示することを基本としています。開示にあたっては、法令および証券取引所の規則に従い、当社の事業活動を理解いただくために役立つ情報を提供してまいります。

情報開示方法

情報開示は、公正・適時・公平な開示を基本に、東京証券取引所のTDnet（適時開示情報伝達システム）およびマスコミ（記者クラブなど）を通じて行っています。

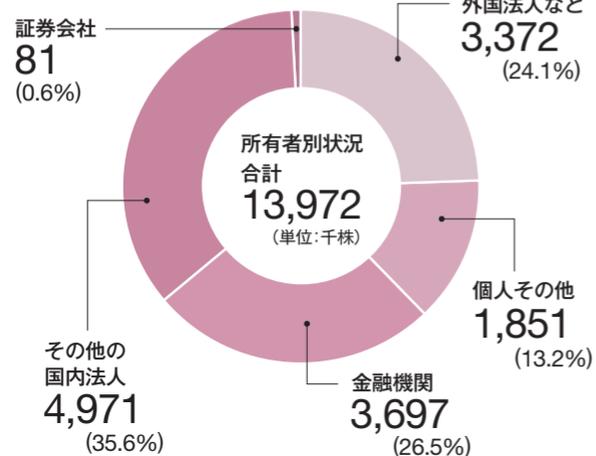
●IR情報サイト

当社ウェブサイトでは、決算、業績予想、株主総会などのIR情報を掲載しています。今後とも内容の充実を図っていきます。



▶株式の状況（2018年3月31日現在）

発行済株式の総数 13,972千株
株主数 3,814名



株主・投資家とのコミュニケーション

●株主総会

当社は株主総会を、株主の皆様へ、適切かつ正確な情報を提供し、ご意見を伺うための重要な機会として位置づけています。わかりやすい事業報告に注力し、電子投票制度も採用しています。

●株主に対する利益還元

当社は、剰余金の配当に関しては、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、各期の収益状況をベースに、安定的な配当実施および今後の事業展開に備えるための内部留保などを勘案して決定することを基本としています。

●決算説明会

主にアナリスト、機関投資家の皆様を対象に定期的（年2回）に決算説明会を開催しています。決算内容の説明のほか、経営方針、経営計画の進捗状況の説明、質疑応答などを行い、コミュニケーションを図っています。



決算説明会

インサイダー取引防止への取り組み

当社グループでは、健全な株式取引市場の構築のために、インサイダー取引の未然防止を徹底しています。社内規程により、社員の当社株式取引について、疑義が生じないように、所定の手続きを実施することを定めています。

方針・推進体制

当社は、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、社会との対話を行うレスポンシブル・ケア活動に取り組んでいます。

方針

当社は、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に、「無事故・無災害」、「顧客重視」、「社会との共存共栄」を基本理念として、「安全・環境・品質に関する経営基本方針」を定めています。

中でも、私達化学企業にとってレスポンシブル・ケア活動は、持続的な発展を続け、社会の信頼を得るために極めて重要な課題です。当社では、1995年からレスポンシブル・ケア活動に参加し、社会の一員として法令遵守はもとより、自主的に環境保全や労働安全、保安防災に取り組んでいます。

レスポンシブル・ケア活動をより一層強化し、社会に発信する良い機会であると考え、2014年に改訂された「レスポンシブル・ケア世界憲章」に署名を行いました。



推進体制

環境保全や労働安全、保安防災などに対応するにあたっては、時に大きな投資を求められることから、当社は、施策の推進に対して的確な経営判断を下すために内部統制委員会の下にレスポンシブル・ケア委員会を設置しています。また、これらの委員会にて、毎年、「方針・計画の審議・決定」、「plan-do-check-act (PDCA) が実行できているかどうかの確認」を行っています。

レスポンシブル・ケア監査

当社は、PDCAを継続して回し、スパイラルアップを図るためにレスポンシブル・ケア委員長のもと、設置される専門部会によるレスポンシブル・ケア監査を行っており、毎年国内工場および連結子会社の製造拠点の監査を実施しています。この監査において年度のレスポンシブル・ケア活動計画の実施状況をチェックし、その結果を内部統制委員会およびレスポンシブル・ケア委員会において報告することで、マネジメントレビューに生かしています。

レスポンシブル・ケア（RC）とは

多くの化学系の企業では、化学物質の開発から製造・物流・使用・最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、その活動の経過を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動を「レスポンシブル・ケア」と呼んでおり、世界約60カ国の諸国で実践されている世界的な取り組みです。

活動と実績

「レスポンシブル・ケア活動の取組課題と実績」、事業活動を遂行した結果の「環境負荷」について報告します。



※ アイコンの詳細は(P.9)をご覧ください。

項目	2017年度		評価	2018年度	
	目標	目標達成状況		目標	
法遵守 (コンプライアンス)	(1) 法違反“ゼロ” (2) 社内規則およびルールの遵守	(1) 法違反：0件 (2) 法改正内容を会議にて伝達。また、同内容をメール連絡、データベースに掲示、順守評価表へ反映。	○	(1) 法違反“ゼロ” (2) 社内規則およびルールの遵守	
労働安全	休業災害、不労災害および交通事故(加害)“ゼロ”	休業災害：2件、不労災害：0件 交通事故(加害)：11件	×	休業災害、不労災害および交通事故(加害) “ゼロ”	
衛生	私傷病休業者の削減および快適な職場作りの推進	時間外労働時間の削減や有給休暇取得率の向上、メンタルケアの強化、健康診断の充実などの取り組みを実施。	○	私傷病休業者の削減および快適な職場作りの推進	
保安・防災	重大トラブル“ゼロ”	重大トラブル：0件	○	重大トラブル“ゼロ”	
化学品安全	化学品の適正管理の推進	米国(TSCA)、韓国、中国における海外化学品規制など、着実に対応。	○	化学品の適正管理の推進	
物流安全	重大物流事故“ゼロ”	重大物流事故：0件	○	重大物流事故“ゼロ”	
地球温暖化・省エネルギー	気候変動対応による環境保全の推進 (1) 製造に関わるエネルギー原単位 対前年度比1%削減 (2) 製品輸送におけるエネルギー原単位 対前年度比1%削減	(1) 製造エネルギー原単位：0.346 対前年度比 1.1%削減 (2) 輸送エネルギー原単位：5.22 対前年度比 7.7%削減	○	気候変動対応による環境保全の推進 (1) 製造に関わるエネルギー原単位 対前年度比1%削減 (2) 製品輸送におけるエネルギー原単位 対前年度比1%削減	
廃棄物	廃棄物削減の推進 (1) 廃棄物発生量原単位： 0.039t/t (代表製品生産量換算) 維持 (2015年度実績) (2) 最終埋立処分量： 廃棄物発生量の1%以下	(1) 廃棄物発生量原単位：0.032t/t (2) 最終埋立処分量：22t/年 (発生量の0.24%)	○	廃棄物削減の推進 (1) 廃棄物発生量原単位： 0.039t/t (代表製品生産量換算) 維持 (2015年度実績) (2) 最終埋立処分量： 廃棄物発生量の1%以下	
PRTRおよび揮発性有機化合物	1. PRTR対象化学物質 (1) ヘキサン：40t/年以下 2. 揮発性有機化学物質(VOC) (1) ヘプタン：300t/年以下 (2) ペンタン：110t/年以下	1. PRTR対象化学物質 (1) ヘキサン実績：36t/年 2. 揮発性有機化学物質 (VOC) (1) ヘプタン実績：250t/年 (2) ペンタン実績：83t/年	○	1. PRTR対象化学物質 (1) ヘキサン：38t/年以下 2. 揮発性有機化学物質(VOC) (1) ヘプタン：300t/年以下 (2) ペンタン：100t/年以下	
環境汚染 (大気・水質・土壌)	重大環境トラブル“ゼロ”	重大環境トラブル：1件	×	重大環境トラブル“ゼロ”	
品質	① 重大クレーム“ゼロ” ② 苦情・クレーム・工程内不適合の削減 (自社起因 前年度(2016年度)比10%削減)	① 重大クレーム：1件 ② 苦情・クレーム：80件	×	① 重大クレーム“ゼロ” ② 品質トラブルの削減 (自社起因の品質トラブル75件以下)	
住友精化グループへの対応	住友精化グループ(海外)の安全・環境管理の強化と運用支援	海外事業所 休業災害：0件、不労災害：0件 災害速報、トラブル報告の配信、海外事業所との連絡会の定期的な開催、海外事業所のRC監査の実施。	○	住友精化グループ(海外)の安全・環境管理、化学品安全および品質保証体制の強化と運用支援	
情報公開と社会貢献	ステークホルダーへのRC情報の提供によるコミュニケーション、および地域貢献の促進	おもしろ教室・環境フェスティバル・子ども化学実験ショーへの出展、理工チャレンジ事業、インターンシップの受け入れなどを実施。	○	ステークホルダーへのRC情報の提供によるコミュニケーション、および地域貢献の促進	

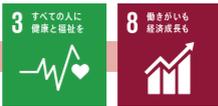
○：目標達成 △：目標ほぼ達成 ×：目標未達成

環境負荷 (2017年度実績)

エネルギー使用量(原油換算)	98,785kl	
水使用量(冷却水の海水除く)	5,517千m ³	
原材料使用量	305千t 及び 2,063千Nm ³	
▼ INPUT		
住友精化の事業活動		
計 画		
▼		
開 発		
▼		
生 産 生産量 285千t/年(換算生産量)		
▼		
販 売		
▼ OUTPUT		
大気	CO ₂ ^(注)	253,378 t
	SO _x	2.0 t
	NO _x	74.0 t
	ばいじん	0.5 t
	PRTR対象物質	55.4 t
	VOC物質	454 t
水質	排水	4,017 千m ³
	COD	41.2 t
	全窒素	14.3 t
	全リン	0.84 t
産業廃棄物	廃棄物発生原単位	0.032 t/t
	外部委託処分量	5,557 t
	リサイクル率	62 %
	最終埋立処分量	22 t

(注) CO₂のみ、本社を含んでいます。

▶ 巻末データ P.32 を参照



労働安全衛生／保安防災

物流安全／化学品安全

「安全をすべてに優先させる」を経営の基本理念とし、従業員が安全で安心して働くことができる職場づくりを目標に取り組みを進めています。

製造工程の安全確保のみならず、物流工程における安全確保や、お客様に対して化学品を適切に取り扱っていただくための安全性データの提供などに積極的に取り組んでいます。

労働安全衛生

当社は、休業災害、不働災害および交通災害（加害）“ゼロ”を毎年目標に掲げていますが、2017年度は休業災害が2件発生いたしました。安全管理面の強化を行うとともに、SEIKA安全基本ルール（作業前の一呼吸・相互注意）の周知と徹底により従業員一人ひとりの安全意識を向上させることで、休業災害、不働災害および交通災害（加害）“ゼロ”達成に取り組んでいます。

保安防災

当社は、重大トラブル*“ゼロ”を毎年目標に掲げており、2013年度に1件発生した以降、“ゼロ”を継続しています。

トラブルを防止するために、手順書・要領書の見直し、設備の定期点検・日常点検の実施、リスクアセスメントや危険予知訓練（KYT）などを実施し、不安全箇所、不安全行動などの改善を行うことで、事故の防止に努めています。

また、定期的に地震・火災・漏洩などの災害事故を想定した実地訓練を地域の消防と協力して実施しています。

災害、事故などの有事発生の際、重要業務への影響を最小限に抑え、速やかに事業の復旧・再開ができるようにBCP（Business Continuity

Plan：事業継続計画）を現在策定中です。この策定した計画を実効性のあるものとするには、全従業員が事業継続の重要性を共通認識し、迅速な判断、行動および柔軟な対応などが必要です。

今後も必要な知識や技能の習得ができるよう、実践的な内容で訓練を継続し、危機対応能力の向上を図っていきます。

※製造工程などで、安全（保安防災）で重大な不具合が発生したものを。

- ① 公設防災機関の出動をおおぎ、防災活動を求めたもの。
- ② 防災関係法規に照らし、処分を受けたもの。
- ③ 防災関係法規に従い、関係機関に届出を行ったが、行政処分は受けなかったもの。

地震対策

1995年の阪神大震災および2011年の東日本大震災という2つの大地震を鑑みて、震災時に被害を拡大させないための備えを行っており、「1981年(昭和56年)以前に建築され、人が常駐する建物」の耐震評価を実施し、耐震補強を実施しました。2017年度からは、「1981年(昭和56年)以前に建築され、常時使用されている作業場」などに対象範囲を広げ、順次耐震評価を実施しています。

▶ 巻末データ P.32 を参照

物流安全確保の取り組み

当社の輸送貨物は、高圧ガス、危険物、毒劇物など危険有害性を有する製品が数多くあり、輸送途上における危険有害性物質の漏洩、爆発、火災などの重大事故は地域の安全や環境に大きな影響を及ぼしかねません。当社にとって物流安全の確保は重要な課題です。

輸送行為の主体は物流会社にあり、物流会社の協力によりはじめて安全輸送が確保されます。当社では、物流の安全確保と遵法輸送の徹底を図るため、危険有害性物質の輸送を委託している物流会社と物流安全環境協議会を組織し、輸送途上における「事故」「災害」「環境汚染」などの発生を未然に防止するため、一体となって活動を展開しています。

有事に備えた訓練と保安防災

事故発生時に迅速かつ的確に対応するために、物流会社と共同で「輸送途上における危険有害性物質の漏洩、火災」などのケースを設定して、緊急通報訓練や災害拡大防止処置訓練を定期的に行っています。

また、物流会社の管理者や乗務員を対象に保安教育を実施し、危険有害性物質の特性、安全な取り扱い方法を周知することで、事故の未然防止に務めています。

化学品安全への取り組み

化学物質が世界的に流通する中、製品などに含有される化学物質の適正管理のため、国際的に法規制の厳格化が進んでいます。

当社は、国内外の法規制の遵守を徹底するとともに、お客様に当社製品を安全に取り扱っていただくため、化学物質の危険性有害性情報を積極的に取得し、各国の言語での「SDS(安全データシート)」「警告ラベル」を通じて、お客様に提供し、適切な使用をお願いしています。

また、当社は、一般社団法人日本化学工業協会が推進するJIPS*へ参画し、自社の化学製品に優先順位をつけ、リスク評価を実施しています。評価結果より、一般社会へ化学物質の安全性情報の概要を提供する安全性要約書を作成し、ICCA（国際化学工業協会協議会）のHPを通じ、情報を公開しています。

※JIPS (Japan Initiative Product Stewardship) : 自社の化学製品を対象にリスク評価を行い管理するとともに、リスク管理に関する情報を社会に公開し、サプライチェーン全体で化学品によるリスクを最小限にしようとする自主的取り組み。



総合防災訓練



物流事故緊急事態想定訓練

環境保全



環境トラブル“ゼロ”、および豊かな自然環境づくりに向け
事業運営に伴う環境負荷を低減を図ることで環境保全への貢献に努めています。

環境トラブル

当社は、重大環境トラブル**“ゼロ”を毎年目標として掲げて活動していますが、2017年度はヘプタン漏洩トラブルが1件発生しました。

このようなトラブルを二度と起こさないよう、公共水域に排出する排水の適切な管理に努め、環境保全に努めます。

※製造工程などで、環境における重大な不具合が発生したものの。
① 公設防災機関の出動をあおぎ、防災活動を求めたもの。
② 防災関係法規に照らし、処分を受けたもの。
③ 防災関係法規に従い、関係機関に届出を行ったが、行政処分は受けなかったもの。

地球温暖化防止・省エネルギー

代表製品換算生産量の単位当たりに対するCO₂排出量やエネルギー使用量を「原単位」として把握・管理し、環境保全に努めています。2017年度は、「エネルギー原単位 対前年度比1%削減」の目標に対し、対前年度比1.1%低減となり、目標を達成しました。

大気汚染防止

SO_x、NO_x、ばいじん、化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）対象物質、VOC物質の適正管理や排出量の低減に努めています。

2017年度は、硫黄分を含む排ガスの燃焼増加に伴いボイラーから排出されるSO_xの排出量が増加しています。

当社が取り扱うPRTR対象物質の中でも取扱量が多いヘキサンは計画的な排出量削減を進めており、40t/年の目標に対し、回収装置の安定稼働に向けた対策の実施などにより2017年度は36t/年の排出でした。

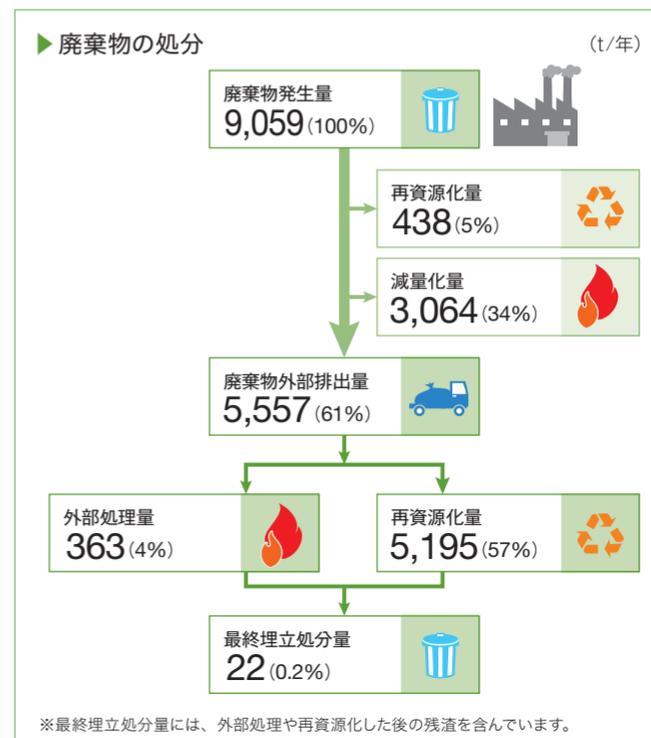
また、VOC物質においては、当社の中で排出量が多いヘプタン300t/年以下、ペンタン110t/年以下の目標に対し、2017年度はヘプタン250t/年、ペンタン83t/年でした。

水質保全

活性汚泥処理などにより、水質汚濁物質の排出量低減や適正管理に努めています。2017年度は生産量の増加による排水量の増加により、COD、全窒素、全リンが対前年度と比べ、増加しています。

廃棄物削減

廃棄物を排出するに当たり、分別、マニフェストの管理、産業廃棄物処理委託業者への適切な処理依頼など、廃棄物処理法を確実に遵守しています。2017年度は廃棄物発生原単位0.039t/t、最終埋立処分を廃棄物発生量の1%以下の目標に対し、廃棄物発生原単位0.032t/t、最終埋立処分は発生量の0.2%でした。



▶ 巻末データ P.32 を参照

品質保証

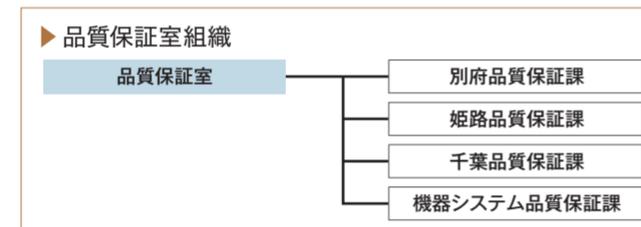
国内・海外拠点の品質保証についてマネジメントすることにより
お客様が満足しかつ安心して使用できる品質の製品とサービスを提供することに努めています。

全社品質保証システム

当社では、「顧客が満足しかつ安心して使用できる品質の製品とサービスを提供する。」を基本に、品質マネジメントシステムを構築しています。全社一体となった品質保証システムを展開し、PDCAサイクルを回すことで、システムのスパイラルアップを図り、顧客目線に立った攻めの品質保証活動を展開しています。

品質保証体制

全社品質保証の統括部門として本社組織の中に、品質保証室を置き、各工場に品質保証課を設置することで、隅々まで目が届く様な品質保証活動を展開しています。



品質保証活動

品質保証室では、「品質保証室連絡会」を毎月開催し、方針を決定し、組織的に品質保証活動を進めるための調整や審議を行い、国内各地区との調和を図っています。

また、毎月の「品質月報検討会」においては、実際に発生したトラブル（苦情・クレーム・内部不適合）に対する対応を協議し、共有化を行っています。更に、この結果をまとめた「品質月報」を発行し、再発防止や水平展開を図り、品質保証の強化に取り組んでいます。

各工場においては、毎月「品質会議」を開催し、トラブルの発生状況および対応を報告、審議するとともに、その審議結果を共有化することにより組織内徹底を図っています。また、予防処置の一環として、品質リスクアセスメントによるリスクの洗いだしを実施し、トラブル防止を図っています。

品質監査

品質保証システムの維持・改善のため、国内の各工場や生産委託先に対して、品質保証室による「工場品質監査」および「QCパトロール」を実施しています。

「工場品質監査」では、品質保証室のスタッフが監査員となり、製造部門と一体となって改善の機会を見つけ出し、品質トラブルの防止と顧客満足の向上に繋がっています。

また、「QCパトロール」では、現場の3S状況や表示類による識別管理状況などを中心に現地確認を行い、品質管理の基本である5Sの徹底を図っています。



品質監査



QCパトロール

グローバル品質保証の推進

近年、当社は、海外からの原料調達、海外拠点における生産、製品の海外販売など事業のグローバル化を図っています。

海外拠点へは「グローバル品質連絡会議」を半期ごとに開催し、品質や製品安全に関わる活動状況について情報交換や指導、各課題への協議をおこなっています。海外の原料供給先や生産委託先の現地監査にも同行し、管理体制を強化しています。

また、毎年海外工場に対する監査および教育を実施することで、体制の強化並びに文化の醸成にも取り組んでいます。



海外グループ会社の品質監査

ガバナンスとリスク・コンプライアンス

会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のため、コーポレート・ガバナンスの強化、リスク・コンプライアンス管理体制の整備・推進に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

- ・ 当社は、株主の正当な権利行使に関し、情報提供の充実や権利行使の機会の確保を行い、また、株主の平等性を実現します。
- ・ 当社は、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会などのステークホルダーの立場を尊重した企業風土の醸成と、これらとの協働に積極的に取り組みます。
- ・ 当社は、役職員が従うべき行動準則を制定・実践し、内部統制システムを適確に運営します。
- ・ 当社は、英文での決算情報の開示やウェブサイトによる適時の情報提供など、適切かつ充実した情報開示を行い、経営の透明性の確保を行います。
- ・ 当社の取締役会は、株主に対する受託者責任および説明責任を踏まえ、会社の持続的成長および中長期的な企業価値の向上を促すべく、経営方針および企業戦略を示すとともに、迅速・果断な意思決定を行います。
- ・ 当社は、会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上に資するように株主と建設的な対話を

行い、これに際して当社の経営戦略や経営計画をわかりやすく説明します。

コーポレート・ガバナンス体制

経営体制は、取締役11名と執行役員14名（うち取締役兼務8名）であり、経営環境の変化に迅速に対応するため、取締役の任期を1年としています。

役員指名委員会と同報酬委員会（社長、人事担当取締役と独立社外取締役2名で構成）は、取締役の指名・報酬、監査役の指名に関する助言を行っています。

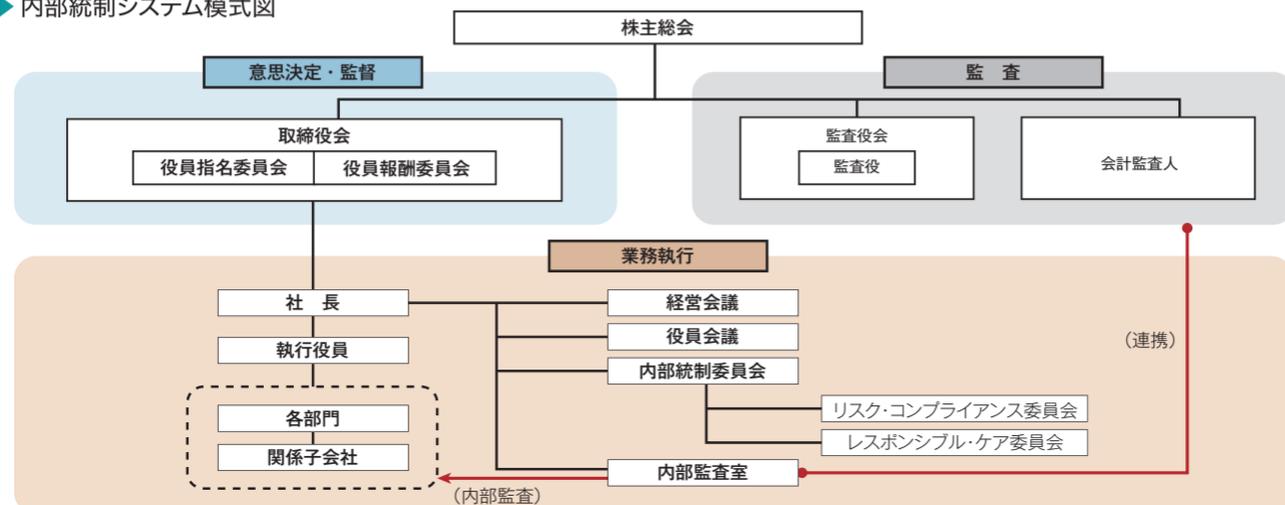
経営会議は、社内取締役がグループ経営上の重要事項を議論する場で、常勤監査役も出席しています。

役員会議は、取締役、監査役と執行役員による業務執行の報告や意見交換の場です。

内部統制委員会は、リスク・コンプライアンスとレスポンシブル・ケア活動（「無事故・無災害」、「環境保護の推進」および「顧客の安全の確保と満足の上昇」）、その他内部統制システムの運用を統括しています。

内部監査室は、業務執行の監査を行っています。

▶ 内部統制システム模式図



リスク・コンプライアンス

当社グループでは、リスク・コンプライアンス管理体制を整備、推進しています。

リスク管理体制

●未然防止

リスク・コンプライアンス委員会およびレスポンシブル・ケア委員会において、様々なリスクが当社グループに及ぼす影響を評価し、優先度、重要性を勘案して、毎年度の目標を設定しています。また、リスク管理の見直しを行い、次年度の活動に活かしています。

●緊急時の対応

緊急事態（人命への危険や企業の財産・信用に重大な影響を及ぼす事態、自然災害など）に対し、速やかな被害拡大の防止と事態の収拾を図り、再発を防止するため、事故対策本部を設置し、対応にあたります。

Topic

コンプライアンスの手引き改訂

当社はコンプライアンスの考え方について、社則で取り決めているほか、従業員に「コンプライアンスの手引き」として、小冊子（リーフレット）を配布、また電子掲示板を通じて配信しています。

今回、取引先や、現在の情勢にあわせ、コンプライアンスの手引きの内容を見直しました。

主には、下記4点と、より従業員が理解しやすいような表現に変更しました。

- ・ 児童労働／強制労働の禁止
- ・ 職場の安全衛生確保
- ・ 購買取引先などからの社会通念を超える利益の供与及び受領禁止
- ・ 購買取引先にたいしても、社会的責任を果たしていることを要求

コンプライアンス

●コンプライアンスPDCA管理

当社では、毎年、リスク・コンプライアンス委員会およびレスポンシブル・ケア委員会において、目標を定めて、実行し、その成果を検証することで、コンプライアンスの向上に努めています。

●内部通報制度

コンプライアンス違反などの事実について、ホームページ、電子メールと郵便の方法により、内部通報の受付をしています。窓口は、社内と社外（法律事務所）に設けています。

●コンプライアンス相談

コンプライアンスにかかる社員からの疑問に答えることにしています。

●コンプライアンス教育

新入社員、リーダー・主任層や新任管理職などの階層別集合研修やテーマに応じた職場教育を行うなど、様々な啓発・教育の機会を設け、コンプライアンスの実効性を確保しています。

今後も、社会の一員として、法令や各種の規則・規範などの遵守をはじめ、ステークホルダーや社会の要請に適確に対応してまいります。



会社概要と2017年度の業績

会社概要

設立: 1944(昭和19)年7月20日 資本金: 9,698百万円 従業員数: 1,269名(連結ベース2018年3月31日現在)

2017年度の業績

当期の当社グループの売上高は1,058億8千3百万円(前期比7.1%増)、営業利益は97億3千4百万円(前期比7.7%減)、経常利益は99億3千5百万円(前期比0.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は66億9千8百万円(前期比16.7%増)となりました。

なお、平成26年3月期より、当社グループの業績をより適切に管理・開示するために、順次、海外連結子会社の会計年度終了日を12月31日から連結会計年度と同じ3月31日へ変更していることに伴い、前期に1社が2017年1月1日から2018年3月31日までの15ヶ月間の実績を連結しました。

これらの海外連結子会社にかかる連結期間差異の影響を除いた当期業績は、前期比で売上高は95億1千8百万円増(9.9%増)、営業利益は6億9千8百万円減(6.7%減)、経常利益は4千万円増(0.4%増)となります。

化学品事業

当事業では、売上高は182億9千3百万円(前期比1.7%増)、営業利益は18億7千9百万円(前期比3.5%減)と増収減益となりました。これは、微粒子ポリマーなどの出荷が増加したものの、医薬製品の販売が減少したことなどによるものです。なお、海外連結子会社にかかる決算期変更の影響は軽微です。

化学品事業

183億円
(17.3%)

ガス・エンジニアリング事業

161億円
(15.2%)

売上構成(連結ベース)

1,059億円
(2017年度)

吸水性樹脂事業

715億円
(67.5%)

吸水性樹脂事業

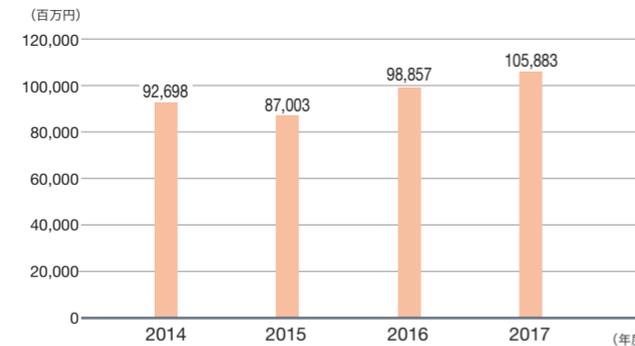
当事業では、売上高は715億3千2百万円(前期比8.7%増)、営業利益は60億2千3百万円(前期比21.8%減)と増収減益となりました。なお、海外連結子会社の決算期変更にかかる影響を除き、前期と比較しますと、売上高は81億4千万円増(12.8%増)、営業利益は15億6千5百万円減(20.6%減)です。これは、中国をはじめアジア新興国向け販売数量の増加などにより増収となったものの、原燃料価格上昇の影響を受け減益となったものです。

ガス・エンジニアリング事業

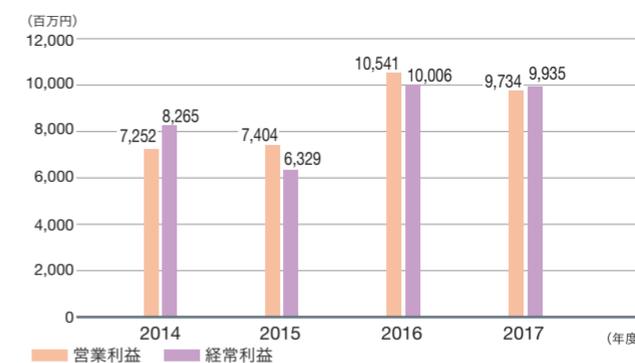
当事業では、売上高は160億5千7百万円(前期比6.4%増)、営業利益は18億1千5百万円(前期比106.6%増)と増収増益となりました。これは、エレクトロニクスガスの販売数量が増加したことなどによるものです。なお、海外連結子会社にかかる決算期変更の影響は軽微です。

財務指標

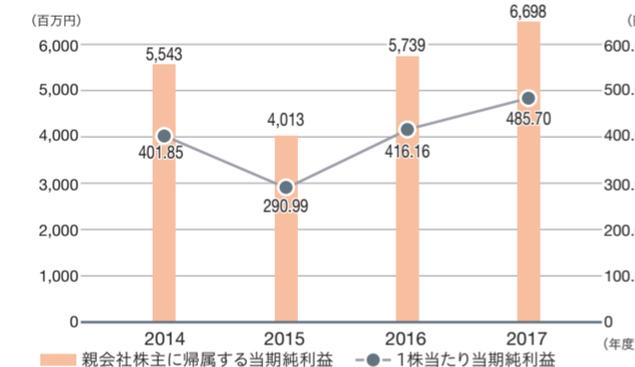
▶ 売上高



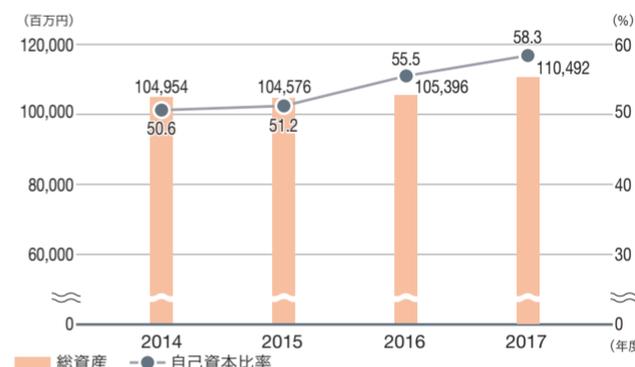
▶ 営業利益・経常利益



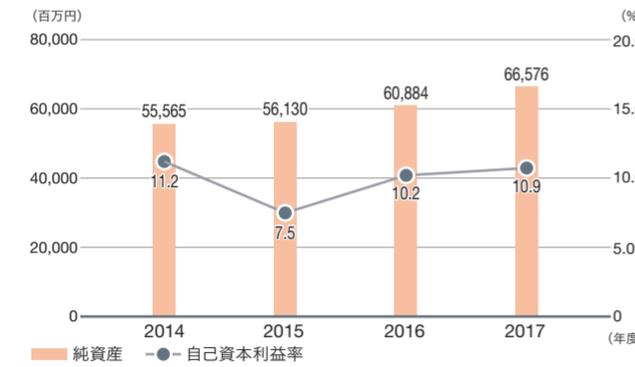
▶ 親会社株主に帰属する当期純利益・1株当たり当期純利益



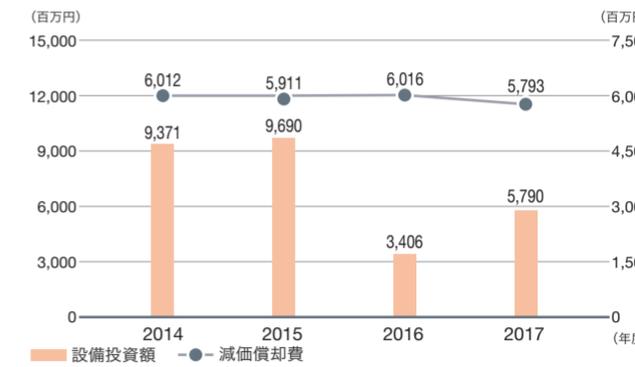
▶ 総資産・自己資本比率



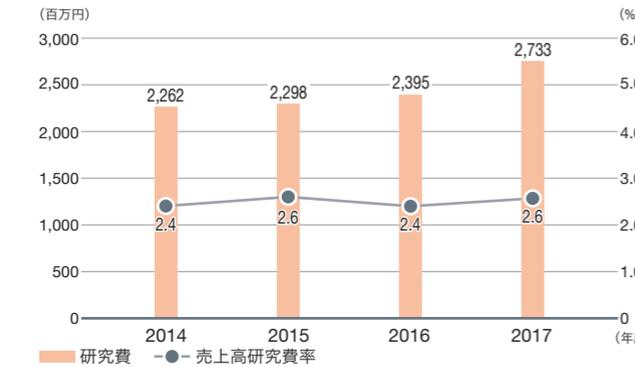
▶ 純資産・自己資本利益率



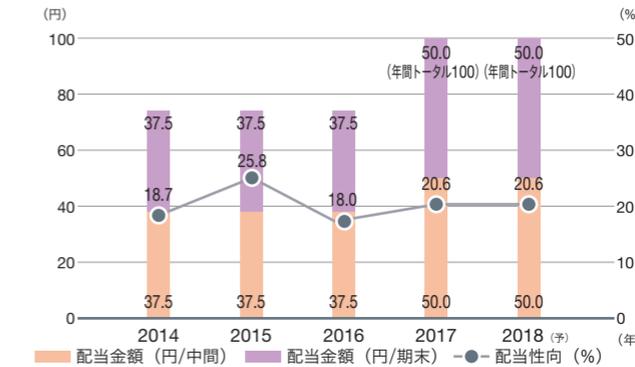
▶ 設備投資額・減価償却費



▶ 研究費・売上高研究費率



▶ 配当推移



※ 2016年10月1日付けで普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。2014年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

グループネットワーク

国内拠点 ▶ 巻末データ P.32 を参照



海外拠点



Topic

グループネットワーク (海外ニュース) 住友精化貿易(上海) 有限公司

2017年7月、住友精化貿易(上海) 有限公司は、リチウムイオン電池用水系バインダー「アクアチャージ」の中国展開を促進するために、評価施設を備えた拠点を上海に開設しました。

リチウムイオン電池産業の成長著しい中国において、以前は日本からの出張により顧客対応していましたが、現在は当拠点を活用することで、現地ニーズ、技術課題に対するスピーディーな対応が可能となりました。

今後も技術サービスの提供を通じ、顧客満足度の向上に取り組んでまいります。



国内拠点

本社：大阪、東京
 営業所：大阪、東京
 工場：別府工場(兵庫)、姫路工場、千葉工場
 研究所：吸水性樹脂研究所(兵庫)、機能化学品研究所(兵庫)、ファインガスシステム研究所(兵庫)

連結子会社

	会社名	主要な事業内容
国内	セイカテクノサービス株式会社	各種サービス業務
海外	スミトモ セイカ ヨーロッパS.A./N.V.(ベルギー)	高吸水性樹脂・化学品などの製造・販売
	スミトモ セイカ ポリマーズ コリア カンパニー リミテッド	高吸水性樹脂の製造・販売
	スミトモ セイカ シンガポール プライベート リミテッド	高吸水性樹脂の製造
	住精ケミカル株式会社(韓国)	エレクトロニクスガスの製造・販売
	住精科技(揚州)有限公司	エレクトロニクスガスの製造・販売
	台湾住精科技(股)有限公司	エレクトロニクスガスの製造・販売
	住友精化貿易(上海)有限公司	高吸水性樹脂・ガス製品などの販売
	スミトモ セイカ アジア パシフィック プライベート リミテッド(シンガポール)	高吸水性樹脂・化学品などの販売
	スミトモ セイカ アメリカ インコーポレーテッド	高吸水性樹脂・化学品などの販売

巻末データ

▶ 環境会計および経済効果

(百万円)

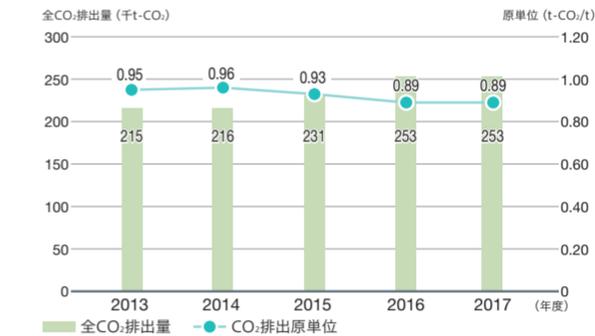
年度		2015		2016		2017	
環境保全コストの分類		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	40	351	72	342	48	329
	地球環境保全コスト (温暖化・省エネ)	14	2,272	62	1,653	18	1,785
	資源循環コスト	19	286	12	254	0	266
上・下流コスト		79	8	16	10	1	11
管理活動コスト		16	163	11	155	10	166
研究開発コスト		91	309	68	245	192	288
社会活動コスト		0	2	0	1	0	1
環境損傷対応コスト		0	0	0	0	0	0
総計		259	3,391	241	2,660	269	2,846
経済効果		1,627		5,152		799	

2015年度の対象期間：2015.4.1～2016.3.31 2016年度の対象期間：2016.4.1～2017.3.31 2017年度の対象期間：2017.4.1～2018.3.31 範囲：当社単独
算出方法：投資額、ランニングコストなどの費用額は実行費用から環境保全に関わる割合を案分して算出しています。

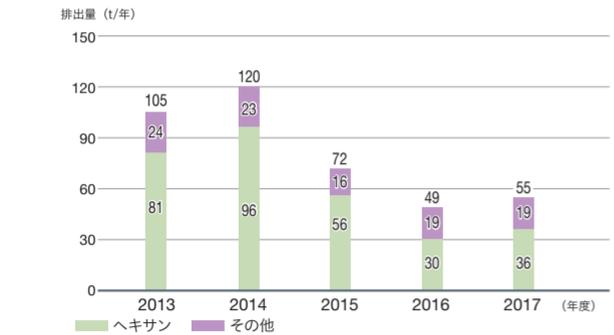
▶ 省エネルギー状況



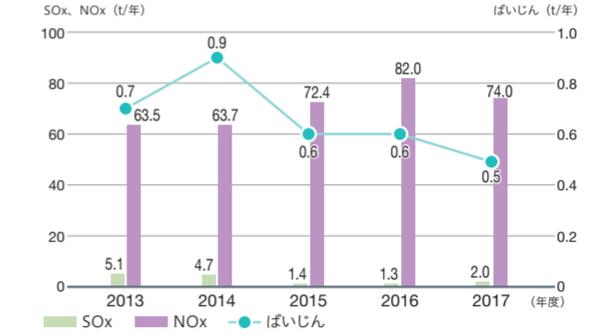
▶ CO₂排出量



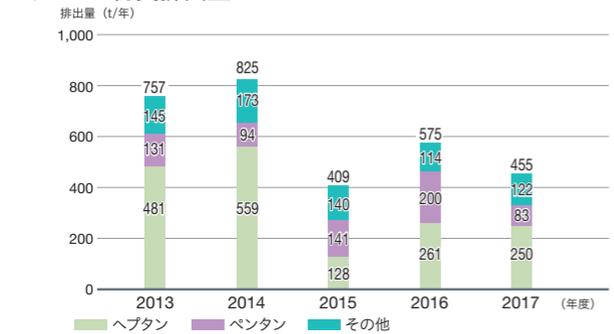
▶ PRTR法対象物質排出量



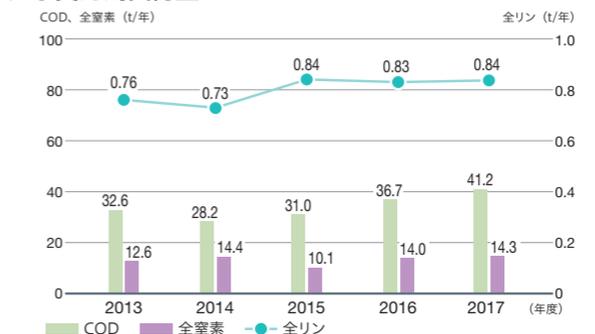
▶ SO_x、NO_x、ばいじんの排出量



▶ VOC物質排出量



▶ 水質汚濁負荷量



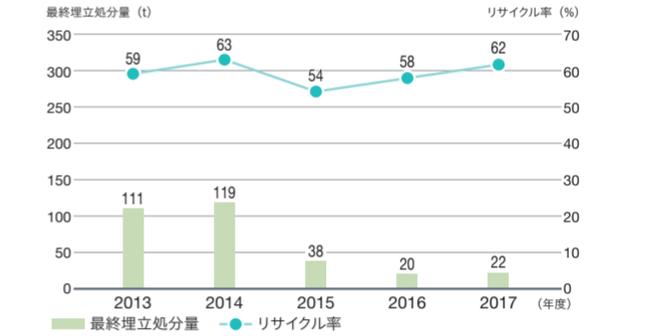
▶ 工場パフォーマンスデータ (2017年度)

	別府工場	姫路工場	千葉工場	
エネルギー (原油換算)	12,000kℓ/年	84,700kℓ/年	2,020kℓ/年	
大気	CO ₂	77,100t/年	164,000t/年	6,220t/年
	SO _x	2.0t/年	- t/年	- t/年
	NO _x	6.9t/年	66.6t/年	0.5t/年
	PRTR 法対象物質	1.4t/年	48.1t/年	5.9t/年
排水	排水量	1,600千m ³ /年	2,090千m ³ /年	331千m ³ /年
	COD	21.9t/年	18.7t/年	0.6t/年
廃棄物	発生量	5,270t/年	3,610t/年	182t/年
	リサイクル率	42%	91%	97%
	最終埋立処分量	15t/年	7t/年	0.2t/年

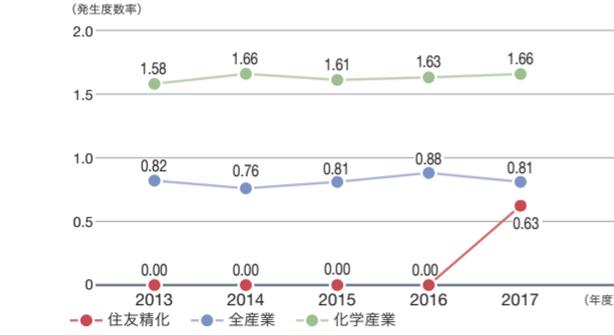
▶ 廃棄物外部排出量および発生原単位



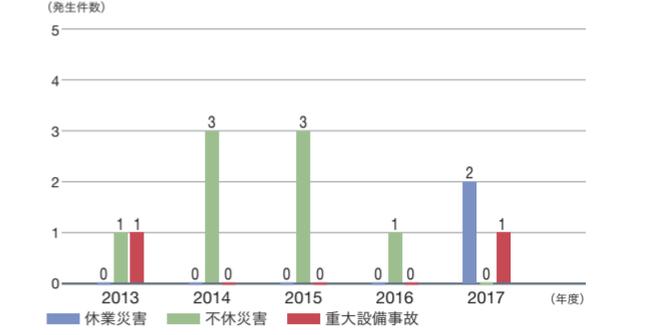
▶ 最終埋立処分量とリサイクル率



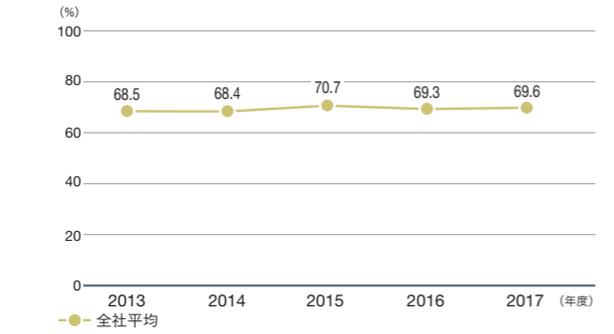
▶ 労働災害発生度数率



▶ 労働災害 (工場内) の発生件数



▶ 有給休暇取得率



▶ 再雇用者実績

年度	2013	2014	2015	2016	2017
定年退職者数	11	19	19	25	12
再雇用者数	10	16	17	22	7
再雇用率	91%	84%	89%	88%	58.3%

▶ 育児・介護休業取得者実績

年度	2013	2014	2015	2016	2017
育児休業	3	6	2	5	3
育児時短	0	3	5	5	5
介護休業	1	0	1	1	1
介護時短	1	1	0	0	0

住友の事業精神



(営業の要旨)

第1条：わが住友の営業は信用を重んじ確実を旨とし、もってその鞏固隆盛を期すべし。

第2条：わが住友の営業は時勢の変遷、理財の得失を計り、弛張興廢することあるべしといえども、いやしくも浮利にはしり軽進すべからず。

住友の事業精神について

住友の事業精神の源流ともいえる「営業の要旨」にある、「信用を重んじ確実を旨とし」とは、取引先の信頼、社会の信頼に応えることを最も大切にするということであり、「浮利にはしり軽進すべからず」とは、目先の利益のみにとらわれることのないようにという、強い戒めです。こうした精神は、現在も住友グループ各社に受け継がれています。

住友の井桁マークについて

井桁マークは住友グループのシンボルとして知られています。井桁は本来「泉」「井戸」を象徴する紋章で、天正年間、住友の元祖が初めて京都に店を開いたころの屋号「泉屋」に由来しています。

明治以後、その事業の拡大発展とともに井桁マークは住友事業全体の象徴として、社章や商標に用いられるようになり、現在では、連系各社を中心に多数の関連会社を擁する住友グループのシンボルとして社会の大きな信頼をかちえています。

CSR報告書Webサイトのご案内



本報告書および過去の報告書は、当社HPにも掲載していますので併せてご覧ください。

<https://www.sumitomoseika.co.jp/csr/responsiblecare.html>

第三者検証意見書



「住友精化株式会社CSR報告書2018」

第三者検証 意見書

2018年8月3日

住友精化株式会社
代表取締役社長 小川 育三 殿

一般社団法人日本化学工業協会
レスポンスフル・ケア検証センター長
永松 茂樹

■ 検証の目的

本検証は、住友精化株式会社作成した「住友精化株式会社CSR報告書2018」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、レスポンスフル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンスフル・ケア活動の内容
- 4) 報告書の特徴

■ 検証の手順

- ・ 本社において、各サイト(事業所、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びに彼らより資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・ 別府工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、資料提示・説明を受けること、並びに現地での現物確認を含む証拠物件との照合により行いました。
- ・ 数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・ 数値の算出・集計方法は、本社及び別府工場において、合理的な方法を採用しています。
 - ・ 調査した範囲において、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・ 報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは用語の整合性等に関し、若干問題があることを指摘しましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) レスポンスフル・ケア活動の内容について
 - ・ プロセス・作業のリスクアセスメント、取り扱い化学物質のリスクアセスメント、品質リスクアセスメントをそれぞれ計画的に行い、設備や作業の改善、トラブル防止に取り組んでいることを評価します。また、RC監査や品質監査等での改善の指示を踏まえた取り組みの強化を期待しています。
 - ・ 別府工場では、無災害13年目を迎えており、更なる継続を期待します。その裏付けとなる三つの安全活動が充実し、工場一丸となって継続・推進していることを評価します。①HH(ヒヤリハット)活動では、ヒヤリの可能性を事前に想定する「想定ヒヤリ」を積極的に活用し、実際のヒヤリ体験を著しく減らしていること。②作業前のKY(危険予知)活動を徹底して実施していること。③リスクアセスメント活動も定着し、そのフォローを行っていること。
 - ・ 別府工場・姫路工場ともに、整理・整頓・清掃が徹底され、場内表示も見やすく、挨拶含め5S活動が定着していることを評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・ 会社の目指すべき姿(中長期経営計画)を明確にした中で、CSRマネジメント、持続可能な開発目標SDGsに対する取り組みと貢献する製品の紹介、そして個々の環境・安全など重要な課題ごとの取り組みの実態紹介など、全体の構成が分かり易くなっています。更に充実した内容になることを期待します。

以上